

【寄 書】

土木関係者の銅像

眞 田 秀 吉\*

明治初年以来我国の土木鉄道学校等の創業時代には、幾多の功労者があつた。例えば鉄道の松本荘一郎、平井晴二郎氏は河川港湾の古市公威、沖野忠雄両氏に匹敵する人であり、琵琶湖疏水の田辺朝郎、小樽築港の広井

勇氏等は之に次ぐ初期の大功労者であつた。此等の人の記念碑や銅像は所々にあるが、此内銅像については、之を諸書に見たり友人に聞いたりして次表を得た。但し調査漏れも多々あるべし、他日を待つこととする。

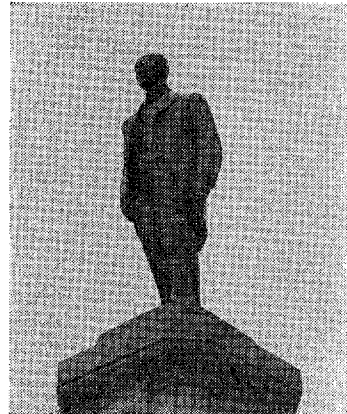
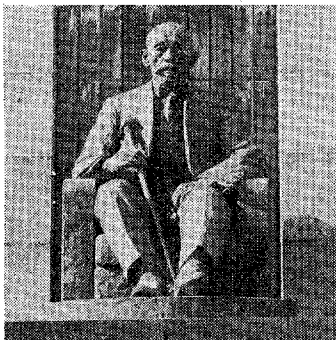
【原文のまま掲載】

備考：×印 戦時供出 ○印 其後復造

人 名	卒 業 年	建 立 年	場 所	事 業
小栗上野介忠順		大正 11 年	横須賀諏訪公園 後臨海公園に移す	徳川幕府勘定奉行（当時の制度にて作事係を兼ね）にして慶応年間以来横須賀海軍工廠の基礎を据へた
ベェルニ－（仏）		同	同	慶応元年来朝50余人の仏人工師の首長として横須賀海軍工廠創立の際造船所、灯台、水道等を造る、明治8年帰国
×○ 井 上 勝	文久3年英国に学ぶ	昭和初年	鉄道省横供出しだが、昭和34年復造	明治4年工部省鉄道寮頭となり、我国最初の鉄道京浜間、京都神戸間に尽力す、明治10年より鉄道局長
ファンダーレン（蘭）	1806年デルフト工業専門学校	昭和6年	猪苗代湖の日橋川畔	明治5年（35才）来朝、我国治水港湾灌溉工事等を調査指導し、他の蘭人工師の長たり、野蒜築港、北上運河、安積疏水を作る、13年退任、1906年（明治39年）南国にて死す、69才
×○ クローフォールド（米）	1862年頃ベルシルバニア大学	昭和4年	札幌一旦供出し後小樽に復造	明治11年（36才）来朝、北海道開拓使雇となり、幌内小樽間の鉄道や土木を司る、又松本荘一郎と共に東京高崎間、東京青森間の鉄道調査をなし我国私設鉄道の基本となつた、14年解任、1924年（大正13年）11月米国にて死す、83才
松本荘一郎	明治10年頃米国大学	同	札 幌	上記クローフォールド技師長の下に副として、北海道の鉄道や土木を司る、後内地初期の鉄道功労者でもある
平井晴二郎	明治12年頃米国大学	同	同	同 上、此外東京地下鉄道最初の社長
ウエスト（英）			東大工科前庭	明治15年（35才）来朝、工部大学及東京大学にて教師（機械科船用機関）（土木等の学生にも）41年1月教師館にて死す、61才
バルトン（英）	1880年キングス大学	明治33~4年	台 北	明治20年（32才）来朝、東大衛生工学教師兼内務省衛生局雇、29年頃迄の水道は皆氏の調査計画による、又東京市区改正に尽力す、29年退任し台湾にて台北水道を作る、32年8月同地にて死す、44才
西村捨三	江戸にて塩谷岩陰学ぶ	昭和33年	大阪天保山	元彦根藩士、明治18~22年内務省土木局長、次に大阪府知事、24年農商務次官、次に北海道炭鉄道社長、30~36年大阪築港所長、41年1月彦根にて死す、66才
古市公威	明治12年仏国大学	昭和12年	東大工科前庭	元姫路藩士、明治8年仏国留学、13年以来内務省土木局長と工科大学々長を兼ね、工科の基礎を作つた、土木局長、土木技監として我国土木の開祖たり、鉄道作業局長官、通信次官、京釜鉄道総裁、男爵、昭和9年1月死、81才
× 沖野忠雄	明治12年仏国諸芸学校	昭和11年	淀川宅馬開門供出、近日復造の企あり	元豊岡藩士、明治9年仏国留学、16年より内務省土木局に入り河川港湾に終身尽力す、内務技監、淀川改修と大阪築港は特に力を致し、機械化施工の範を垂れた、大正11年3月死、61才

\* 名誉員 工博 元土木学会々長（第21代）

原 ×○ 広	龍 井	太 勇	明 明 札	治 治 農	14 14 學	年 年 校	大 大 大	東 小	大 大	工 工	科 科	前 樽	庭 樽	東大教師，東京市技師，橋梁 北海道庁技師， <u>小樽築港</u> ，東大教授，昭和3年10月死，67才		
× 田	辺 朔	朔 郎	明 工	治 部	16 大	年 学	大 大	京 京	都 都	疏 水	事 務	所 内	内 内	京都府技師， <u>琵琶湖疏水</u> ，日本最初の水力電気を作る，後北海道の鉄道技師，又東大，京大教授，昭和19年9月死，84才		
友	成	仲	明 工	治 部	18 大	年 学	大 大	昭 赤	和 平	8 市	年	赤 平	市	北海道深川， <u>空知</u> ， <u>北海土功組合の灌漑工事</u> ，昭和6年2月死，約72才		
× 後	藤	新	平					鐵 軍	道 の	省 命	内 に	米 撤	軍 去	元医師， <u>滿鉄総裁</u> ，東京市長， <u>鉄道大臣</u> ， <u>内務大臣</u> 等，伯爵		
× 床	次	竹	次	郎	明 東	治 法	23 科	頃 大	昭 和	戦 時	中	北 海	道	庁 内	内務技師，北海道庁技師，昭和19年1月死，76才	
名	井	九	介	明 東	治 大	25 年	大	昭 和	6	年	利 根	川	佐 原	堤 上	内務技師， <u>利根川改修</u> ，東京土木出張所長，内務技監，昭和17年8月死，72才	
中	川	吉	造	明 東	治 大	29 年	大	昭 和	34	年	北 大	工	学	部 庭	内	九大教授， <u>北海道大学名誉教授</u>
古 × 坂	町 本	太 助	太 郎	明 東	治 大	31 年	大	昭 和	11	年	淀 川	枚 方	堤 上	内務技師， <u>淀川利根川改修</u> ，神戸及大阪土木出張所長，昭和19年11月死，71才		
奥	田	助	七	郎	明 京	治 大	33 年	昭 和	33	年	名 古	屋	築	港 頭	学校卒業後より名古屋築港に始終一貫従事す，昭和29年9月死，82才	
伊	藤	長	右	衛	門	明 東	治 大	35 年	昭 和	20	年	頃	小 樽	北海道庁技師， <u>小樽築港</u> ，昭和14年8月死，64才		
太	田	円	三	明 東	治 大	37 年	大	昭 和	30	年	頃	神 田	橋	公 園	鉄道技師， <u>復興局技師</u> ，昭和1年頃死，約49才	
保	原	元	二	明 東	治 大	37 年	大	昭 和	17	年	空 知	郡	幌 向	村	北海道庁技師， <u>石狩川</u> ， <u>夕張川改修</u>	
来	島	良	亮	明 東	治 大	45 年	大	昭 和	9	年	東 京	目	白 陸	橋 側	内務技師， <u>利根川</u> ， <u>雄物川改修</u> ，東京府土木部長， <u>道路整備</u> ，昭和8年11月死，約48才	



【写真説明】

- 左上：横須賀開港の恩人小栗上野介忠順と私人技師  
F. ベェルニー両氏の胸像(横須賀臨海公園)  
左下：土木学会初代会長 古市公威博士の像  
(東京大学構内)  
右上：鉄道局長 井上 勝氏の像  
(東京駅降車口前国鉄本社横)